

大日本土木は日本の無償資金協力事業を中心にこれまで52の国と地域で200件以上の事業に施工者として参画し、現在、アフリカ・中近東・中央アジア・大洋州をメインフィールドとして、多数のプロジェクトを施工中だ。「安心をつくり続ける。」という企業理念を掲げ、「誠実に誇りをもって挑戦しよう」という行動指針に基づき、これまでに培ってきた経験とノウハウを生かしながら、さまざまな国や地域でSDGs（持続可能な開発目標）の実現を目指し、発展に貢献していくことを目標としている。

南太平洋諸国のパプアニューギニアでも、インフラ整備を通じて生活環境の改善に取り組んだ。人口は約700万人。国土には急峻（きゅうしゅん）な山岳地帯、美しい海岸があり、世界でも珍しい生物など貴重な自然が数多く残る。首都のポートモレスビーの沖合にはサンゴ礁が広がり、スキューバダイビングの名所として知られる。

海外建設協会

プロジェクト便り

◆パプアニューギニア

ポートモレスビー下水道整備事業

大日本土木

ポートモレスビーの人口は約36万人（2011年時点）。市内中心部には高層ビルも立ち、南太平洋諸国では一番規模の大きい都市だが、沿岸部には下水処理場が存在していなかった。十分な処理をされていない汚水が海中へ放流され、沿岸部の海洋汚染や地域住民の衛生環境の悪化を引き起こしていた。

低コスト・環境配慮で美しい海に

当社が施工を担当したポートモレスビー下水道整備は、太平洋島しょ国で初となる本格的な下水処理施設（処理能力1日当たり1万8400立方メートル）と下水配管網を建設するプロジェクト。沿岸にサンゴ礁が広がる豊かな海の環境保全と地域住民の衛生環境の改善を目的にしている。

当社はJVパートナーである日立製作所とともに2015年10月に工事を受注した。16年4月に着工し18年10月に下水処理

場、下水道、中継ポンプ場の一部が完成。19年5月までに関連施設がすべて完工した。

事業のポイントとして、比較的低コストで運転・維持管理が可能な下水処理方法や、下水道幹線の管材に耐久性・耐食性の高い高密度ポリエチレン管（HDPE管）を採用した。海洋生物への影響を低減するため海中に900メートル配管し、処理水を沖合で放流。施工時に干渉するサンゴなどの海洋生物は事前に影響のない場所へ移植した。

現地では日本の施工会社が同国で初となる下水処理施設の建設ができるのか、懐疑的な見方を

をする関係者もいた。だが工事が進むにつれ、品質や安全、工期、環境、コストなどさまざまな面で最善に向けて取り組まわれたの姿勢が理解されていた。工期の遅延や大幅な工事費の超過もなく完工し、発注者から質の高いインフラ整備として高評価を受けた。

プロジェクトは国土交通省の第4回JAPANコンストラクション国際賞で最優秀賞を受賞した。今後の海外展開の励みにしたい。



美しい海を保全するためのサンゴの移設作業

質の高いインフラで高評価



下水処理施設の施工状況



下水処理施設の完成後の施設全景